

予備のクラン (後発) 安井孝男

輪行で富士吉田まで行くことになって、いた。電車の中は夏にしては寒く長袖、下にも長いものがほしくいられた。

富士吉田駅に着き輪行を解いていると佐藤さんが「ドロヨケを忘れたの」と言い出した。「ロードみたいじゃないか。」と言われてみんなが笑った。ドロヨケの後半分がないというのは、こうおもしろい恰好だ、た。

自転車を組み上げ、食料を買って一人で出発した。しばらく行くと山口がどこかがタガタというので見るとドロヨケのかくしネズがぬるんでいた。それを直して山中湖を目ざして走った。道はだらだらの登りだった。したいに割り仲間が栗原さんが遅れ出した。そして山中湖に着くと栗原さんの姿はなくなっていた。

しばらく待ったがいっこうに来ない。「誰か見てこいよ。」という言葉に「や、ぱりこういうことはロードだね。」と言われて栗原さん捜しに出発したのです。来た道を2kmばかりもどり、道と間違えたかも知れないと山中湖町と標識に出ている方に1kmほど行って見たが見つからなかった。

栗原さんなら大丈夫ということが出発。先発隊はここでボートに乗って遊んだらしいが後発隊はそんな子供みたいなことはしなかった。

湖畔の大象食堂(ま、たは人よりしているような店)で

昼食を取り、水を補給して出発。

山中湖を別れる道のとこで先頭のほうで止まったのでどうしたのかと見れば「なつかしい」栗原さんがそこにはいたのでした。

全員そろって峠へ走りだしたのでした。上りはたいしたことにはなかったのですがいそぐこともなかったのので後3のほうで登って行、たのです。

峠はトンネルでした。バスが登って来たので休む間もなく坂を下り出したのです。「こんな細い道にバスなんか抜けないうしバスの後ろで廃気がスス吸ってるなんてつまらん。」と小島さんが言ったのでした。上りでは遅かった栗原さんが下りでは速いこと速いこと。ロードでも追いつくのにかなりかかってしまったのです。途中センターラインをオーバーして車にぶつかりかけた者やガードレールと仲よくなりかけた者もいたけれどみんな無事に下り着いて店でジュースを飲んだりした。

次は地道の上り。ここは少し前に降った雨のため少しぬかみんできて自転車が少々よごれたけれどもまあまあいい道でした。ここで永見が転んだのです。ボクは目撃していいのでくわしい状況はわからないけれども花房が「オオそう言や永見はまた転んだらんな。」と言ったところ永見が「もう転ばんワ。」と言った直後に転んでしまったということです。地道はある程度クレーブラーにとっては苦しいのですがなにかバンクもせが走りぬきました。この道ももうすぐ舗装されるようでちよくちよく舗装しており又

工事をしている所もあつた。

県境の橋の上で写真を撮り神奈川県に入りそのおとはほとんどバラバラになつて走りどこかで集まり又バラバラになつて走るという走り方になつた。

平野に近づくと山のすそを走る形になり長くゆるり下りが続いた。その道は景色がよかった。ここもほぼ個人々々で走り形になつた。坂の終りに集合したがまた誰か走りなかつた。誰たつたかは覚えていない。又ロードで捜しに行かなければいけないんじゃないかという声が出だしたころや、とその人達が到着した。何でもバンクしたとか。

これまで山中湖周辺の他は車が少なかつたがしだいに車の量が増えてきた。人造湖のあたりまで来ると渋滞していた。自転車は車の間をぬつて走つた。そしてや、と目的の駅に着いた。

駅の前にはバカの一つ覚えのように「清のランドボット」ばかりかかっているレコード店があつた。そこで輪行して帰つた。

天気もよかつたしケガをした者もなかつたのでよかつた。

